

別府里浜づくり新聞

第43号
平成23年
3月18日

グループ討議のまとめ

グループ討議の最後に、各グループの代表者に討議での意見を総括して発表して頂きました。

○Aグループの発表

- ・直立消波型護岸か二重パラペット護岸のどちらがよいかという点では、二重パラペット型護岸がよい、という意見にほぼ一致した。
- ・上人ヶ浜から、北浜地区1まで4箇所の整備が行われているが、一連の海岸を歩いて楽しめるように、一体的な整備を行って欲しい。
- ・朝見川の河口付近は越波したり、防波堤が壊れるところである。重点的に整備して欲しい。
- ・定置網の場所を考慮する必要がある。
- ・二重パラペット型護岸に既存護岸へ上がる階段を付ける場合、道路側ではなく海側にしてほしい。

○Bグループの発表

- ・市民・住民の日常生活と安全に重きを置いた海岸がよい。防災に偏重せず、日常生活で使える海岸にしてほしい。
- ・大分から別大国道を通って浜脇まで行けるようになるので、さらに自転車で北浜地区1の海岸を通れるようなスロープがあるとよい。
- ・二重パラペット型護岸の方が、前面部分を低くできるので、護岸背後にお住まいの方のプライベートが守られるのではないかと。
- ・自己責任で水に触れられるようなことができないか。できるだけ海に近づけるようにしてほしい。
- ・ゴミの問題がある。
- ・透水層に立ち入れないよう、柵や網を張った例が紹介されたが、透水性のある舗装などを用いることで歩ける範囲を増やすことはできないか。
- ・船溜りは台風時に波が上がって危険なので、合わせて対策を行って欲しい。



Bグループの発表の様子

○Cグループの発表

- ・市民や住民の日常生活での利用に重きを置いて欲しい。その上で、集客が可能ならば歓迎する。特にゆめタウンには、地域外から多くの人に来てい

- るので、海岸が整備されれば来る人がいるだろう。
- ・二重パラペット型護岸がよい。ただし、透水層の石が剥き出しになるのは危険であり、安全対策が必要である。石以外の素材やグレーチングを被せる方法も検討してほしい。
- ・護岸北側端部には排水口があるが、大潮の時には上流であふれることもある。注意してほしい。
- ・住居がある北側では、既存護岸上部の歩ける範囲が狭まるように、護岸の幅を狭くしてほしい。
- ・街灯が必要である。夏の夜は、護岸の裏の暗がりには若者を中心に人が集まるので不安になる。

○Dグループの発表

- ・住民、市民の日常利用に重きを置いた方がよい。例えば、銀天街の空き店舗で行っているように、護岸の町側のコンクリートの壁面に、小中学校の生徒が絵を描いてはどうか。
- ・二重パラペット型護岸の方がよい。前面の護岸上部が広くて低くなるので、背後住居のプライベートが守られる。
- ・車いすで散策できるようにできないか。永石通りの「ユニバーサルマンション」には、車いすで生活されている方が多くいる。
- ・その他、街灯やベンチを設置してほしい、水に触れられるような階段を何カ所かにつくってはどうか、といった意見があった。



Dグループの発表の様子

○小島委員長の総括

- ・各グループとも概ね意見が一致していた。整備の方向性として、市民・住民の日常利用に重きを置いた整備が相応しいということ。なお、そうすることで、結果として他所からも人が来るだろう、という意見があったが、まさにその通りだと思う。
- ・護岸構造形式は、二重パラペット型護岸がよいということ合意できたと思う。
- ・その他、各グループとも水に触れられるようにできないか、などの意見があったが、こうした意見を含め、皆さんの要望になるべく応えられるよう、検討会で専門的な検討を行っていきたい。

お知らせ

今年度の北浜地区1の検討は、第3回検討会をもって終了しますが、来年度も引き続きワークショップおよび検討会を予定しています。詳細は、随時下記のホームページ等にてご案内致しますので、ご協力をお願い申し上げます。

※別府港海岸の整備に関する情報は下記の別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧ください。
<http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/beppu/>

第3回別府港海岸づくりワークショップ（北浜地区1）を開催しました



別府港海岸（北浜地区1）の整備計画の策定にあたり、平成23年2月24日（木）午後7時から、別府市南部児童館において「第3回別府海岸づくりワークショップ（北浜地区1）」を開催しました。

当日は、北浜地区1近辺にお住まいの方を中心とした22名の市民の方々と、大分県並びに別府市の関係職員が参加しました。今回のワークショップでは、第2回検討会で北浜地区1に相応しいとして2つに絞り込まれた護岸構造形式をさらに絞り込み、また洗練すべく、それぞれの構造の課題等についてグループ討議を行いました。

ワークショップの内容

最初に、別府港整備計画検討会の委員であり、ワークショップでの検討内容を検討会に反映するためにも参加している地元代表者の方々および学識経験者の方々を事務局から紹介し、その後は、菅座長に会の進行を行って頂きました。まず、平成23年1月28日（金）に開催された第2回検討会での検討内容について、検討会に出席された河村委員に報告して頂きました。これまでの検討内容の報告として、当初提案していた7つの護岸構造のうち、北浜地区1に相応しい護岸構造として、評価のポイントと各構造の特徴と合わせて、直立消波型護岸と二重パラペット型護岸の2構造に第2回検討会で絞り込まれたことを事務局から説明しました。加えて、斎藤委員および斎藤研究室の学生より、北浜地区1の現状の全体模型および直立消波型護岸と二重パラペット型護岸の部分模型を使って、階段やスロープの設置方法などの課題と合わせ、それぞれの護岸構造について解説して頂きました。

以上を踏まえ、参加者には4つのグループに分かれて頂き、今後2つの護岸構造をベースに検討を進めることを前提に、「整備の方向性（日常・非日常）」、「2つの護岸構造形式に期待することおよび課題」の2つの議題についてグループ討議を行って頂きました。ワークショップの最後に、各グループの代表者に討議内容を発表して頂きました。

グループ討議の結果

2つの議題に対するグループ討議の結論は、4つのグループともに概ね一致していました。まず、整備の方向性については、市民や住民の日常利用に重きを置いて整備を進めるべきであり、そうすることで、結果的に外部の人にとっても魅力的な海岸になるという意見です。次に、具体的な護岸構造については、散策等に利用できる範囲が広く、背後に住まう方のプライバシーも守りやすいだろう二重パラペット型護岸が適しているという意見です。ただし、一方では二重パラペット型護岸の課題として、透水層部分の安全対策や、高齢者や身体障害者の方も気軽に立ち寄れるようなスロープ等の設置、水に触れられる親水性の可能性を探ることなどの課題も指摘されました。こうした討議の結果を踏まえ、今後護岸の詳細な検討を行っていきます。

<第3回 別府港海岸づくりワークショップ> (北浜地区1) 一會次第一

1. 開会
2. 委員紹介
3. 第2回検討会の報告
4. これまでの検討内容の報告
5. 模型による断面構造の説明
6. 討議
 - (1) 議題の説明
 - (2) グループ討議
7. 本日のまとめ
8. 閉会



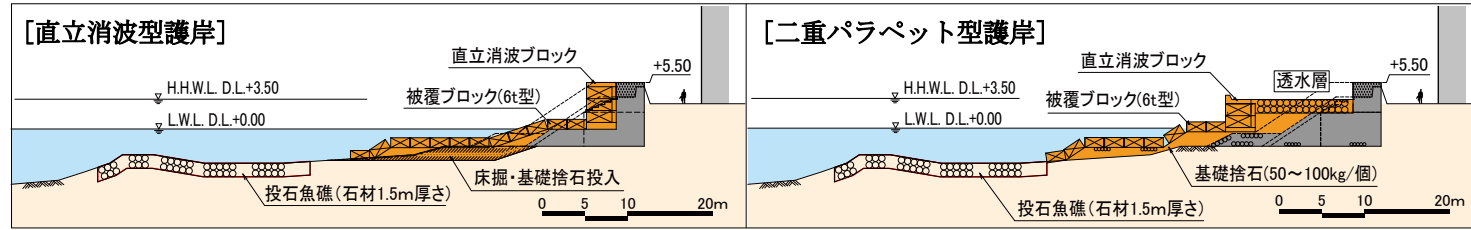
第2回検討会の報告をする河村委員

第2回検討会で絞り込まれた護岸構造

第2回検討会では、基本的な護岸構造形式として事務局から提案していた7つの護岸構造のうち、直立消波型護岸と二重パラペット型護岸の2つの護岸構造が、北浜地区1では総合的に見て有利であるとされました。ワークショップではその理由について、7つの護岸構造を評価した、漁業活動との協調や利用・景観の観点などの複数の評価軸と、評価軸に対する護岸の特徴を説明しました（7つの護岸構造形式および評価軸等については、里浜づくり新聞41号をご覧ください）。その上で、2つの構造形式について、先進事例を交えて今後の課題等を説明しました。



透水層を用いた二重パラペット型護岸の事例 (馬堀海岸：神奈川県)



模型による現状と構造形式の特徴の説明

事務局からの説明に加え、現状の500分の1の全体模型と、2つの護岸構造の100分の1の部分模型を用いて、検討会の齋藤委員（東京工業大学教授）と齋藤研究室の学生から、現状の特徴と直立消波型護岸と二重パラペット型護岸の特徴について解説して頂きました。模型と説明の概要は以下のとおりです。



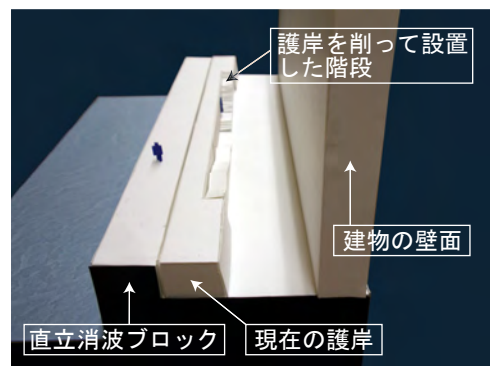
模型前での議論の様子



現状全体模型(楠港北側からの眺め)

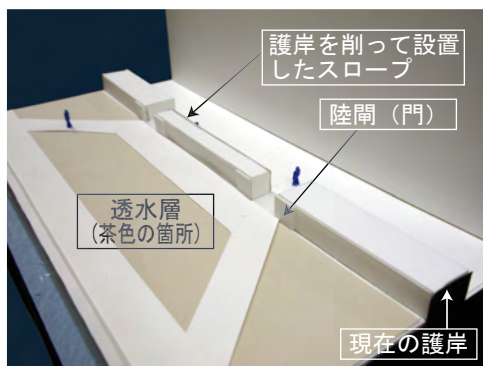


現状全体模型(楠港から見た対象範囲)



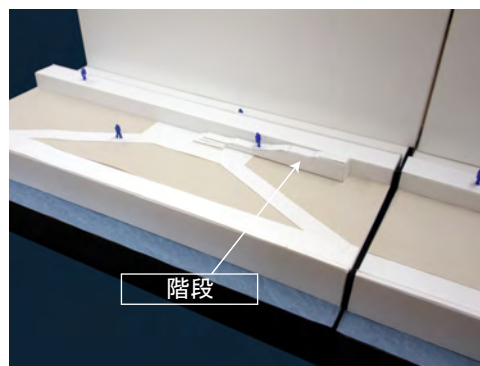
直立消波型護岸の部分模型

- 現在の護岸前面に直立消波ブロックを置いて、広がった護岸上部を利用することが考えられる。
- この場合、現在の護岸を削って階段等を設置することが考えられる。
- ただし、地盤との高低差が大きい(2.5m)ので、階段やスロープは長大なものにならざるを得ず、高齢者や障害者の利用には不利である。
- 現状の護岸を削って階段を設置することで、特に背後に建物が迫っている場所では、護岸背後の閉塞感を低減する効果も期待できる。



二重パラペット型護岸の部分模型(海側へのアクセス例)

- 現在の護岸の前面に設置する比較的幅の広い構造物の上部を利用することが考えられる。
- 利用できる場所の位置が低いため、陸間(門)などで護岸背後から直接繋がれば、階段やスロープが短くてすみ、特に高齢者や障害者の利用に有利である。
- 現状の護岸を削って階段を設置することで、特に背後に建物が迫っている場所では、護岸背後の閉塞感を低減する効果も期待できる。



二重パラペット型護岸の部分模型(現在の護岸上へのアクセス例)

- 現状の護岸を利用する場合、海側に階段を設置して、現在の護岸上を利用することも考えられる。
- なお、二重パラペット型護岸で陸間(門)を設置しない場合、背後から海際に行くためには、現在の護岸上部に一旦上がってから、海側に降りる必要がある。

グループ討議について

市民の方々と行政の担当者は4つのグループに分かれてグループ討議を行いました。まず、討議して頂く議題として「①整備の方向性(市民・住民の日常利用or広い範囲から集客)」「②2つの護岸構造形式に期待できることおよび課題」の2つを事務局から提示し、参考までにこれまでに実施したアンケートから、整備の方向性や、現状の海岸の課題に関する意見を紹介しました。その後は、各グループに入って頂いた検討会の市民代表の委員に進行係をお願いし、2つの議題について、出された意見を模造紙に書き込みながら討議を行いました。この内、②の護岸構造に関して各グループで出された主な意見は以下の通りです。

Aグループ



(直立消波型護岸、二重パラペット護岸共通)

- 潮見川の河口付近は台風時の被害が大きいため、重点的に整備してほしい。海からと川からの水がぶつかって浸水する。漁協の人と一緒に考えていきたい。
 - 漁業を行うためには、魚礁と海面に一定の距離が必要である。
 - できるだけ海側に波が反射しないようにしてほしい。
 - 魚礁は守らなくてはならない。藻が育っている。クロメ等は市場に出せる。
 - 定置網を考慮した整備が必要(簡単には移動できない)。
- #### (二重パラペット型護岸)
- 餅ヶ浜のように海側を広くしてほしい。
 - 陸間(門)を作った場合、誰が管理するかが問題である。
 - 二重パラペットはなごやかな感じがする。
 - 現状の護岸は、階段を付けて狭くして、上は歩けなくてよい。
 - 現状の護岸の上部に上がる階段を設置する場合は、海側に設置してほしい。

(直立消波型護岸、二重パラペット護岸共通)

- 防災に偏らない発想で整備を考えて欲しい。
- 自転車やジョギングで、別大国道にスムーズにつながるようにするべき。
- 自己責任で海に降りられる階段をつけられないか。
- 海を眺めながら歩きたい。高齢者も歩くのでスロープがあると良い。
- ゴミへの対応は必要である。消波ブロックや船溜りにもよく溜まる。
- 階段やスロープの設置により、道路の閉塞感が減るとよい。

(二重パラペット型護岸)

- 護岸海側のスペースを広げられると良い。
- 透水層部を透水舗装にするなど、歩ける範囲を広げることを検討してほしい。
- 現状の護岸の高さ(+5.5m)を下げられると良い。
- 二重パラペット型護岸ならば、利用する場所が住宅から離れる。
- 事例の様な、透水層にネットを被せる安全対策はいかがなものか。

Bグループ



(直立消波型護岸、二重パラペット護岸共通)

- 住宅が隣接している北側は、現状の護岸上部を歩けないようにしてはどうか。
- 排水口が楠港および永石通りの突き当たりにある。大潮の時は排水が悪くなるので気をつけてほしい。
- 夏の夜は護岸背後の暗がり人が集まるため不安になる。明るくしてほしい。

(二重パラペット型護岸)

- 大潮の時、楠港のスロープから波が上がってくる。北端部の海側の法線を、入ってくる波に平行になるように斜めに張り出すなどの工夫をしてはどうか。
- 透水層の石が剥き出しの部分で子供がけがをしないか心配である。安全対策が必要である。
- 透水層は、石を使う以外の方法はないか。グレーチングは使えないか。
- 沖に出した時に、船の往来の妨げにならないようにしてはならない。
- 広い部分にベンチなどを置けないか。

Cグループ



(直立消波型護岸、二重パラペット護岸共通)

- あえて特定の利用のための空間を設ける必要はない。きれいに整備されれば、自然と人は増える。
- バリアフリーにしてほしい。車いす利用の方々にアンケートをしてはどうか。

(直立消波型護岸)

- 現状より多少広がる程度では、護岸上を利用するのは危険、不安である。

(二重パラペット型護岸)

- 前出し幅が直立消波型護岸より広く、安心感がある。
- 利用する場所が広くてよい。今は一人しか歩けない。
- 利用する場所が背後の建物から離れ、かつ低い位置になるので、住民のプライバシーを散策者などから保護するのにいい。
- 高低差が少なく、上がり降りしやすいのがいい。
- 前面に水に触れられる場所を数ヶ所つけてほしいが、安全性に不安が残る。

Dグループ

